

1

a

視線

b

雑誌

c

伝

つた

2  
ウ

3  
イ

4  
A  
目

B  
飯

5  
C  
話

6  
エ

7  
A・ウ

【順不同・完答】

7  
I  
エ

II  
針千本

8  
(記述題)

9  
ア

2

1  
a

間借り

b

拡散

c

険

しい

2  
A

学ぶ

B

世界の見え方

C

喜び合

3  
I

オ

II  
イ

III  
ア

4  
(記述題)

5  
イ

6  
人間は自由

7  
(記述題)

8  
ウ

9  
お互

った

10  
共同

能力

【完答】

【完答】

1

8

瑞希に不安や絶望を感じさせない  
 よう、余命が残り少ないことをさ  
 とらせないようにした。たいさ  
 とう気持ち。

(同意可)

2

4

新しいことを学んでいる途中では、全体との  
 つながりがわからず、そのとき学んでいるこ  
 との意味がよくわからない  
 ということ。

(同意可)

7

文字を勉強するようになったおかげで  
 ついていないこと、気づいて、木が命をも  
 できなくなっただから。  
 粗末に

(同意可)

【配点】

1 1  
8 1 4  
その他

2 2  
4 1 3 5  
7

各2点×13＝26点  
 各6点×3＝18点  
 各4点×14＝56点

①

- 1 a 「視線」は目で見ている方向のこと。 b 「雑誌」には週刊・月刊・季刊などがある。「雑紙」としないように。 c の「伝う」はあ  
る物に沿って移動すること。伝わること。「手伝う」なども使う。
- 2 歯をみがこうとしない娘を父親が、「虫歯のお化けが出」ると言って「脅かし」ている。娘が「すっと立ち上がった」ので「脅かし  
た効果」あつてのことかと思いきや、「洗面所へは向かわず…：…ブツブツ言っている」という場面である。
- 3 直後のせりふに惑わされてはいけない。「ナイショ」とある。直前の「だめ」というせりふは「パパに教えてほしいなあ」に対する  
ものである。
- 4 Aの「目を細める」はうれしいことがあつたり可愛いものを見たりして目を細くしてうれしそうにすること。 B 「日常茶飯事」はご  
く平凡なありふれたことがら。 C 「大きなお世話」はいらぬお節介。他人のしてくる世話を拒むときに用いる。
- 5 通読の際にあとの妻のせりふ「昨日みたいに喚き散らさないから安心して」に注目できていれば解けただろう。アは昨日の時点では、  
ほほえましいやり取りといった程度のものである。イの「ニワトリ呼ばわり」も義父母に言われて慌てはしたが、義父母も怒つてはお  
らず、むしろ認めていた。そもそも妻の「告げ口」によって「義父母に知られてしまった」のは「昨日」のことではない。ウは仕事が  
大変だっただけのことと妻に対して気まずいようなことではない。
- 6 「うん」は基本的には、肯定や承諾を意味する返事のことばとして用いる。「はい」と同じである。よってアがまず正解となる。  
また、あとの「あなたの作る曲を聴けなくなっちゃうんだね」からウが導かれる。今日の妻には「落ち着き」があり、イのような思  
いにはならないだろう。エのイヤフォンについての発言は夫のものであり、妻の感想らしきものはくみ取れない。オでは妻は「いち  
ばんのファン」とは言えないし、そんな出来ではCMソングの作曲家は務まらないであろう。
- 7 I 無理をして明るく振る舞つたということである。イヤウでは本当に「おどけた」ことになって、「余命の少ない妻を見舞う夫」  
の心情にふさわしくない。アでは明るい気持ちになっていく訳ではないが、「わざと」していることにならない。  
II 「ママには内緒にしておく」という娘との「ゆびきり」の約束を破つたのである。
- 8 「あなたの作る曲を聴けなくなっちゃうんだね」↓「そんな…：…」、「私が死んだあとのこと」↓「おいおい、何を言い出すんだ」  
のつながりから、容態が悪いことを夫が妻に隠そうとしていることがわかる。ただし、「あなたも、お父さんもお母さんも演技下手」  
なので、おそらく自分の体調と相まって妻には伝わってしまったのである。
- 9 不適當なものを選ぶ問題である。深く読めていないとアが最も「適當」なものだと思つたかもしれない。「君は生きてる。生きて僕  
の目の前にいる。今はそれだけだ」とあつた。夫がいちばん厭なものは再婚ではなく、愛する妻を失うことであり、妻が悲しい思いを  
することである。妻が死んで自分が再婚するなどということは考えたくもないのである。

②

- 1 a 「間借り」は料金を払つてよその家の部屋を借りること。 b 「拡散」は広がり散ること。 c 「険しい」は困難や苦労が多いこと。
- 2 A 知識を覚え、考える作業をすることで「教養を身につける」とあつた。同じようなことは「学ぶ」ことであろう。  
B 「学ぶこと」によって…：…自分の命とそれらがなつていくことに気づくようになった」ことで何が変わるのか。知識が増え、  
それらがなつていくことで「夕日」や「木の根っこ」の見え方が変わったとあつた。  
C あとに「この力があるからこそ、生きていて楽しいと思える」とあつた。「楽しい」ことにつながるもので、「一緒に困難を乗  
り切る力」とは「別の見方」をすべきもののことである。
- 3 I 道なき道を登ると自分のいる場所がわからなくなる↓ところが↓もつと登ると急に見晴らしのいいところに出る。  
II 文字が読めるようになって知識が増えたと夕日の美しさに気づいた↓つまり↓美意識は知識を身につける喜びに係している。  
III 火山の爆発による噴煙におおわれた地球が寒冷化して多くの植物が全滅した↓そこで↓生態系が大きく変わってほかの動物や多  
くのホモ属が絶滅した。
- 4 いわゆる言いかえ問題である。登り道の途中「学んでいく途中ではよくわからない、高い所に来ると見晴らしがよくなって自分の今  
いるところがわかる」学び終える、もしくは学問が進む、という関係がわかれば書けるだろう。
- 5 アは受け身、イは可能、ウは自発、エは尊敬の意味である。
- 6 一つめは学ぶことよっていろいろなことがなつて、自分の立ち位置や自分のいる世界が見えてくるという内容。二つめは知識  
が増えてつながつてくると世界の見え方が変わっていくという内容。三つめは人類は知識を共有し、助け合い、共同することで生き延  
びてきたという内容。
- 7 木の見え方が変わったのである。あとの「命に気づいた」「粗末にできなくなる」がヒントになっている。
- 8 不適當なものを答える問題である。知識や技術を習得すると、何かができないという不自由から解放されて自由になるのである。料  
理が食べやすくなつたり、山を越えられたり、ある食材の毒を消して食べられるようになったりするのは自由度が増すことになる。ウ  
は学びというよりも偏見や思い込みである。 B 国の人を罪を犯したからといって B 国の人すべてが信用できない悪人であるはずがない。  
9 「生き残つた理由として考えられているのが」とあつた。答えになる部分のあとの「お互いに助け合うことで生命を救い合った」で  
は字数が足りない。
- 10 ホモ・サピエンスは「共同」して「大きな動物」と戦うという「危機を乗り越え」たのであつた。内容としては直後の「共同する知  
恵」のことだが、落ち着いて指定の字数に合うことばをさがしてほしい。